

「子供の将来を左右する赤ちゃんのサイン」

赤ちゃんが生まれた！我が家に家族が増えることはこのうえない喜ばしいことである。一方で、その瞬間からこの子の将来を案じ、健全に私たちよりもよりよい人生を歩んで欲しいと願うのは親心の常でしょう。新たな生命は父親と母親の遺伝子が複雑に絡み合い、そして生命として生きる事ができるようになった時、出産を経て外に出てくる。母体の中で成長した赤ちゃんは、両親の遺伝による影響に加えて母親の環境（栄養、ストレスなど）にもおおいに影響を受けて生まれてきた赤ちゃんは様々な成長過程をみせます。もし赤ちゃんの脳の発達に左右差があったなら、子供は将来、発達障害や学習障害などに悩まされる危険性をもっています。交友関係やコミュニケーション上のトラブルを生まれさせず健全な子供の成長に導くために今回は赤ちゃんにみられる脳の発達の左右差があるかもしれないサイン（兆候）を紹介してみましよう。

○四肢の筋の張力が低い

赤ちゃんの四肢に力ない感じ。これを感じるのは通常乳児期であり、授乳中に母親が感じることが多いでしょう。適切な筋力を発揮する脳の発達が遅れているかも。

○なかなか寝返りをしない

おおよそ3ヶ月～5ヶ月の頃になると左右に寝返りをすることを覚えます。

○消化不良を起こしている

消化は適切な脳の発達が必要不可欠。また適切な脳の発達に伴って消化機能も向上します。消化不良の多くの原因は乳製品や大豆製品、麦類によることが多い。

○乳児湿疹や慢性的な中耳炎

乳児の湿疹や慢性的な中耳炎は脳の機能と免疫の発達が適切でない場合がある。

○腹ばい歩きをしない

7～9カ月頃になると腹ばいになってほふく前進のように動き回る。この動きはおおよそ8～12カ月頃までみられるが、腹ばい歩きをせずに成長してしまうことは脳の発達が適切に行われぬ。時期が来たら無理やりに訓練させるのもよい。

○成長を強制

赤ちゃんが自然に学習するよりも早期に腹ばい運動、つかまり立ち、歩行を覚えさせることは脳の適切な発達過程をたどらずに成長していくこととなります。これは脳の動きの左右差を生み出すため行うべきではない。しかし、時期が過ぎても運動を覚えぬ場合には運動を学習させることが必要であることから適切な成長時期を見極めることが大切。

まとめ

赤ちゃんの脳は左脳から発達をはじめ、交互に6歳頃までどんどん成長する。様々な刺激によって適切・不適切に発達し、それは将来にわたって影響を残す。様々な感染症による悪影響もあれば抱く向きがいつも同一であったり、哺乳瓶で育てる、動きを強制させるなどの人による悪影響もある。赤ちゃんが言葉にできない成長上のトラブルは本記事を参考にしてわが子を観察してもらいたい。気になったらいつでも相談してください。

お知らせ

- ✓ 8月9日(水)は勉強会のため休診いたします。
- ✓ 8月11日～15日:お盆休暇。
- ✓ Facebookでも情報を発信、問い合わせもできます。
- ✓ LINE@もはじめました。お使いのLINEアプリから気軽に問い合わせ、確認などできます。
- ✓ LINE@の登録は右のQRコードから。

